

尺の場所には西洋畫成績の肖像貳面(豎額)を上部に、風景貳面(横額)を下方に掲げ、壁面上邊貳ヶ所に英文校名の額を懸く、陳列箱には天井に英文校名の額を下げ、内部周邊には、金工、鑄造、漆工の各作品を排列し、中央に高五寸長七尺四寸幅一尺八寸の臺を作り、此臺の上の中部に飾り棚を置き、木彫、牙彫、金工、鑄造、漆工の各作品を配し、棚の兩側臺上にも、彫刻、鍍金の作品を排列せり。而して別に陳列箱の内部隣りとの間仕切にも、蒔繪、鑄造、金工、芝山象嵌の額面(各一個)を掲げ、又別に本校の狀況を知らしめんがためには、英文一覽數百部を印刷して出品配付することゝなれり。出品名左の如し。

壁面に掲ぐるもの

日本畫成績貼込額貳個(草木花鳥人物の寫生) △西洋畫成績額面四個(自畫肖像貳、風景「奈良、港」貳) △圖案成績貼込額面貳個(工藝圖案一、建築裝飾一)

陳列箱内に排列するもの

彫金龍銀製扇形梅に鶯圖名刺盆△總梨子地武藏野圖蒔繪茶箱△彫金牡丹圖額△孔雀圖蒔繪色紙箱△芝山象嵌群蝶手箱△鍍金銅製群兔置物△金地向日葵圖蒔繪小硯箱△鑄造唐草模樣花瓶△彫金龍銀製樹上鴉圖名刺盆△河骨圖蒔繪手箱△彫金色金嵌入森林圖額△金地棕栢圖蒔繪文箱△香の圖裂地模樣蒔繪手箱△彫刻スペイン踊子(鑄造) △木彫上代人(久斯) 置物△鍍金黃銅製上代農婦置物△彫金銀製鷺置物△鑄造鳳凰香爐△鑄造青銅鳳文香爐△彫金龍銀製雪中松圖花瓶△鑄造葡萄柘榴置物△牙彫鳩置物(二羽) △鑄造渦紋花瓶△木彫彩色絃響置物△牙彫浮世人物置物△牙彫少女置物△

彫金龍銀製出山釋迦置物△平日地巴散し蒔繪菓子器△小判地源氏繪本散し蒔繪葉卷蓆入箱△花車圖蒔繪香盆△彫金龍銀製龍圖香盆△月に時鳥蒔繪香合△懸崖飛瀑圖蒔繪短冊箱△彫金鴛鴦圖卷蓆△彫金龍銀製鍾馗圖香合

陳列箱内間仕切に懸くるもの

薄蒔金地胡蝶舞蒔繪額△鑄造雨中狸圖額△布目象嵌母の慈愛額△芝山象嵌曾子圖牙木嵌入額

関連事項

① 大礼服所持者

大正三年一月十六日、文部大臣官房秘書課長より儀式祭典等に関する総代選定上の必要から大礼服所持者について報告するよう各方面に通牒が発せられた。本校の回答によると所持者は竹内久一、海野勝珉、海野美盛、寺崎広業、古宇田実、大村西崖、白浜徴、白井雨山ら教授たちで、西洋画科では黒田清輝をはじめとして一人も所持者が無かった(大正三年文部省任復職務)。

② 東京大正博覧会

大正三年三月二十日より同年七月三十一日まで上野公園を中心会場として東京府主催の東京大正博覧会が開催され、本校教官の中にも美術部の審査に加わった人が多かった(572頁参照)。この博覧会は上野公園と不忍池畔にセセッション式や東洋式の展示館が数多く建てられ、東京府をはじめ北海道庁、二府四二県、各省官立諸学校、研究所、試験所、台湾朝鮮両総督府、関東庁、樺太庁、諸外国が出